

## ペット用品産業実態調査(2022年度、2023年度)

本調査は、「ペットフード安全法」が2009年に施行され、ペット産業動向への関心が益々高まっていることから、ペット用品産業の出荷動向等の実態を把握し、今後のペット用品産業の取り組み施策への資料として活用するために実施しています。

また、本調査から求められたペット用品の生産・出荷金額や流通実態につきましては、ペット用品業界のみならず、経済産業省等の関係省庁でも行政施策の基礎資料として活用されております。

### <調査方法>

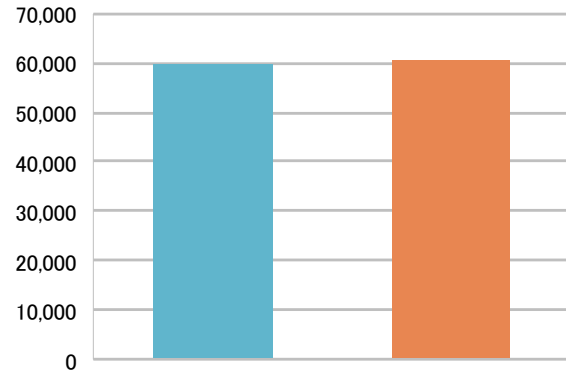
2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日)と、2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)の2年間の出荷金額を、ペット用品カテゴリ全てを対象にアンケート調査を行いました。今回も犬用・猫用のジャーキー等のスナックを除外しました。アンケート調査は、当工業会会員企業を含めてペット用品関連メーカー様97社にご協力をいただきました。

	2022年度出荷金額	2023年度出荷金額	前年度比	前回 回答社数	今回 回答社数
犬用品	59,525百万円	60,512百万円	101.7%	76社	65社
猫用品	42,333百万円	44,722百万円	105.6%	51社	44社
観賞魚用品	17,544百万円	16,799百万円	95.8%	21社	17社
小鳥用品	2,904百万円	2,999百万円	103.3%	11社	13社
小動物用品	8,628百万円	8,701百万円	100.8%	27社	22社
昆虫用品	1,916百万円	1,815百万円	94.7%	9社	9社
爬虫類・両生類用品	1,841百万円	1,842百万円	100.0%	7社	10社
合計	134,691百万円	137,390百万円	102.0%	106社	97社

※ 前年度比は回答社数に変動があるため、2022年度と2023年度の2年間の統計調査により算出しています。

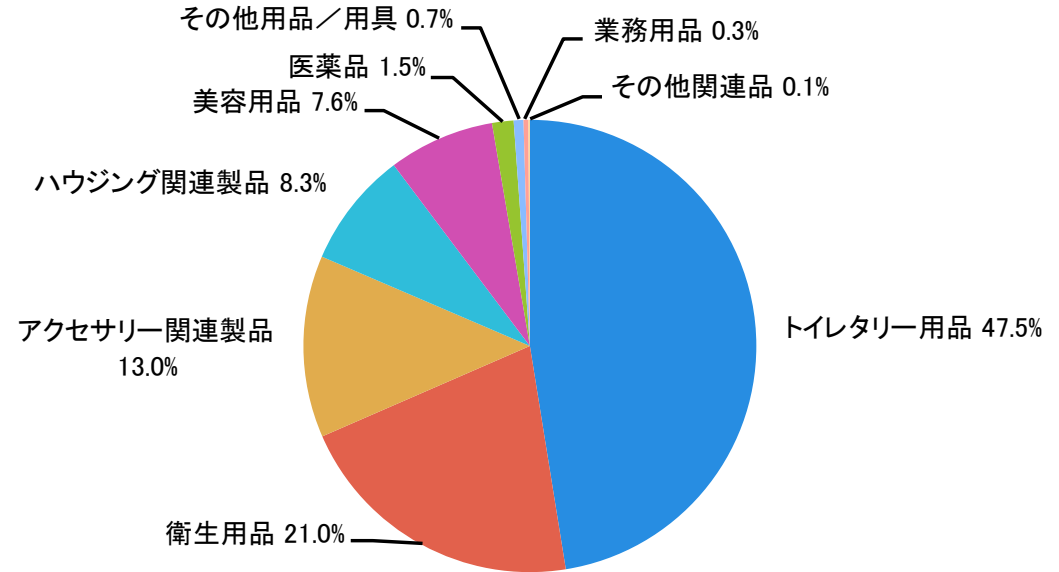
# 犬用品に関する統計結果 集計:65社

①出荷金額合計の年度比較(単位:百万円)

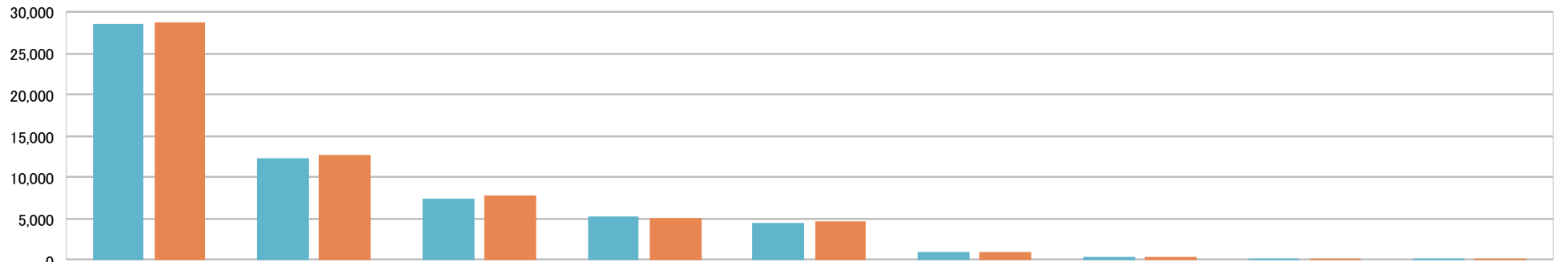


	2022年度	2023年度
犬用品合計	59,525	60,512

②2023年度 カテゴリー構成



③カテゴリー別出荷金額の年度比較(単位:百万円)

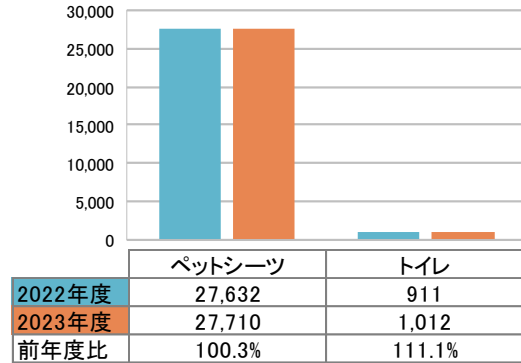


	トイレタリー用品	衛生用品	アクセサリ 関連製品	ハウジング 関連製品	美容用品	医薬品	その他用品/ 用具	業務用品	その他関連品
2022年度	28,542	12,276	7,491	5,215	4,453	836	429	220	63
2023年度	28,721	12,702	7,872	5,010	4,585	927	423	207	64
前年度比	100.6%	103.5%	105.1%	96.1%	103.0%	110.9%	98.5%	94.0%	102.1%

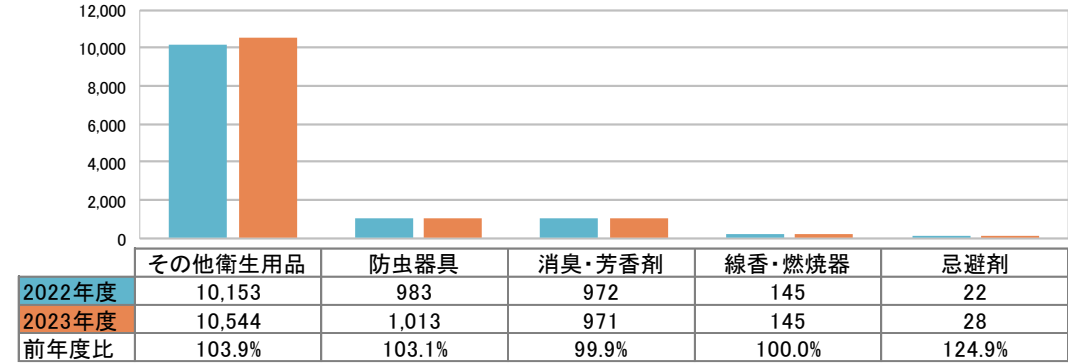
# 犬用品に関する統計結果

## ④商品分類別の年度比較(単位:百万円)

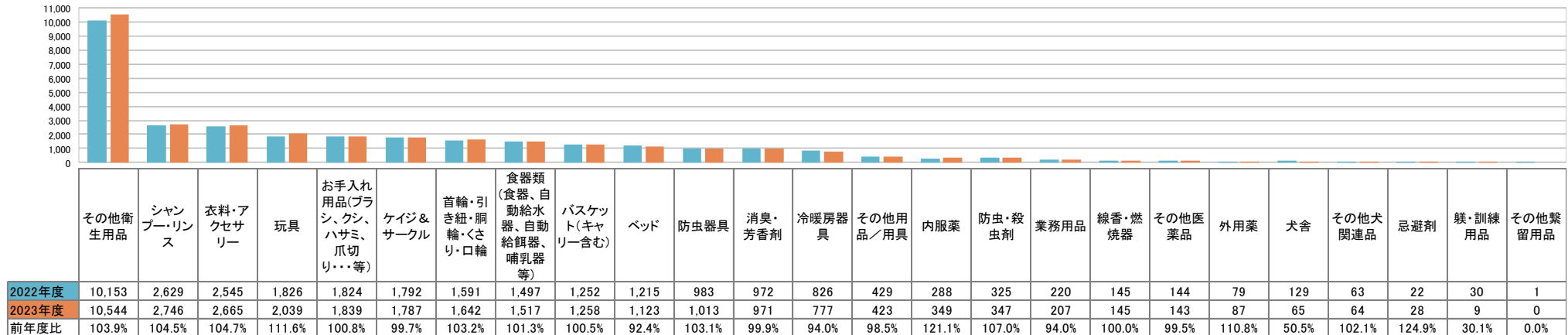
### ◇トイレタリー用品



### ◇衛生用品



### ◇「トイレタリー用品」以外

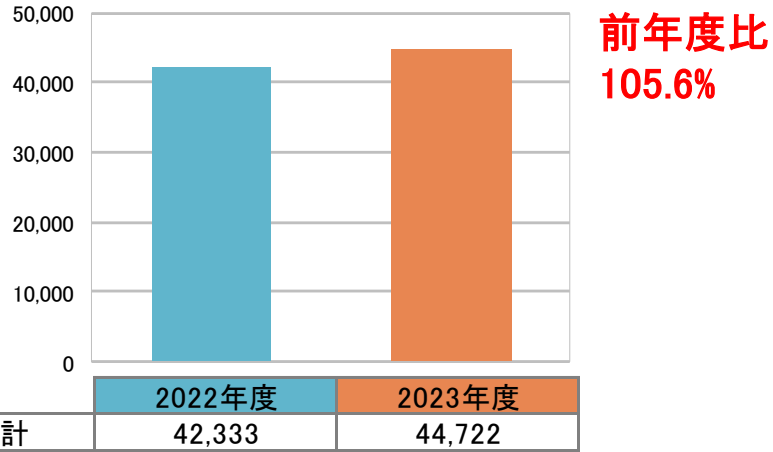


※合計金額ベースでは前年度比プラスとなっているが、数量ベースではほとんどのカテゴリーが前年度割れの傾向。

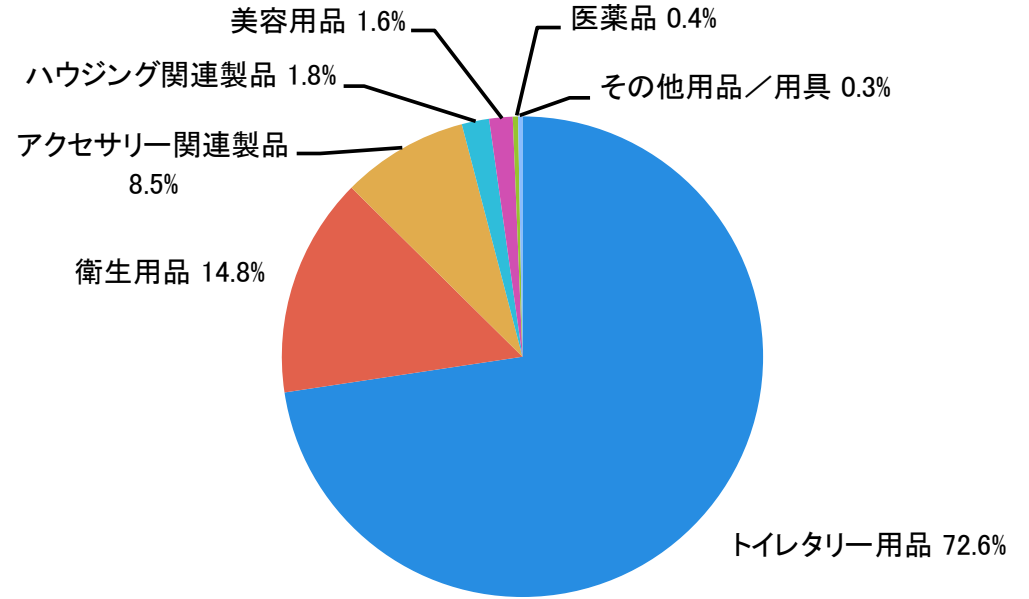
※売上構成の大きいペットシーツ・消耗品も数量ベースでは前年度割れとなっており、犬用品各カテゴリーでの数量的回復が課題。

# 猫用品に関する統計結果 集計:44社

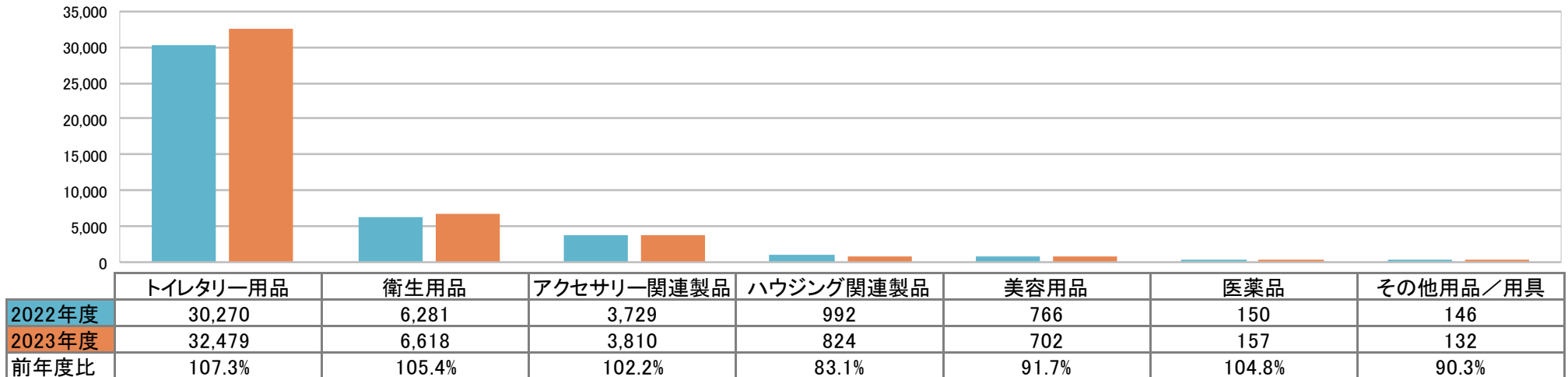
①出荷金額合計の年度比較(単位:百万円)



②2023年度 カテゴリー構成



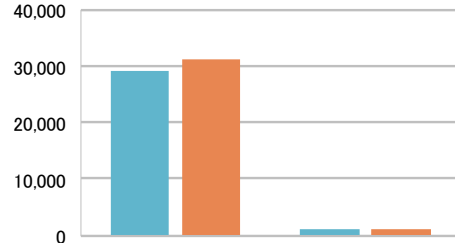
③カテゴリー別出荷金額の年度比較(単位:百万円)



# 猫用品に関する統計結果

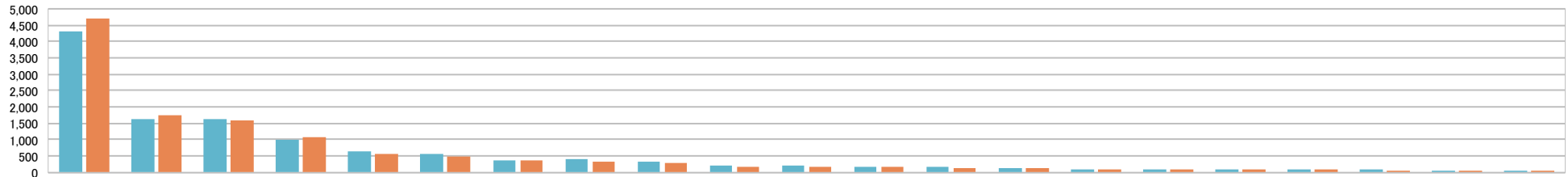
## ④商品分類別の年度比較(単位:百万円)

### ◇トイレタリー用品



	トイレ砂	トイレ
2022年度	29,169	1,101
2023年度	31,279	1,200
前年度比	107.2%	109.0%

### ◇「トイレタリー用品」以外



	その他衛生用品	玩具	消臭・芳香剤	食器類(食器、自動給水器、自動給餌器、哺乳器等)	ファニチャー	ケイジ&サークル	シャンプー・リンス	お手入れ用品(ブラシ、クシ、ハサミ、爪切り...等)	首輪・引き紐・胴輪	冷暖房器具	草・またたび・他	防虫器具	その他用品/用具	躰・訓練用品	防虫・殺虫剤	ベッド	バスケット(キャリー含む)	その他医薬品	猫舎	忌避剤	衣料・アクセサリー
2022年度	4,313	1,628	1,616	990	644	551	368	398	326	179	191	150	146	129	74	85	89	76	87	12	11
2023年度	4,723	1,761	1,582	1,063	564	457	366	337	293	158	153	147	132	122	95	80	72	62	58	12	8
前年度比	109.5%	108.1%	97.9%	107.4%	87.5%	82.9%	99.4%	84.7%	89.9%	88.1%	80.5%	98.4%	90.3%	94.0%	128.5%	93.8%	80.9%	81.7%	66.2%	100.0%	72.7%

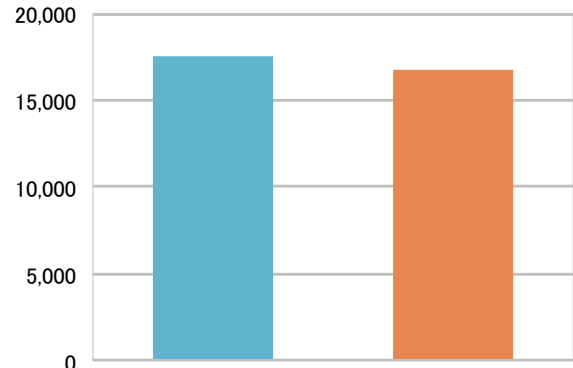
※合計金額ベースでは前年度比プラスとなっているが、数量ベースではほとんどのカテゴリー前年度割れの傾向。

(金額ベースでも前年度割れのカテゴリーが目立つ)。

※売上構成の大きい猫砂でも数量ベースでは前年度割れとなっており、猫用品各カテゴリーでの数量的回復が課題。

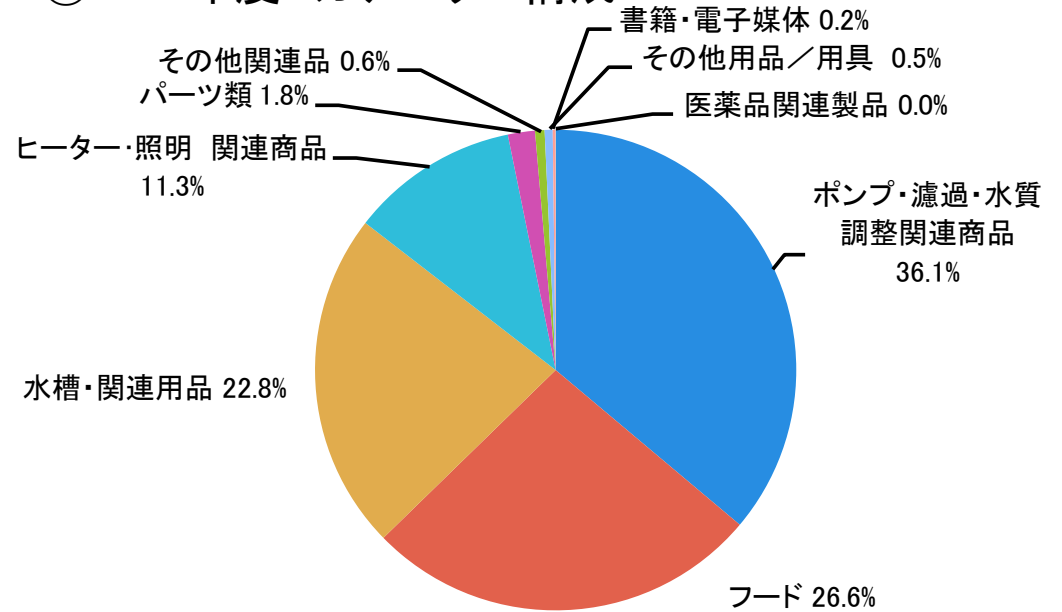
# 観賞魚用品に関する統計結果 集計:17社

①出荷金額合計の年度比較(単位:百万円)

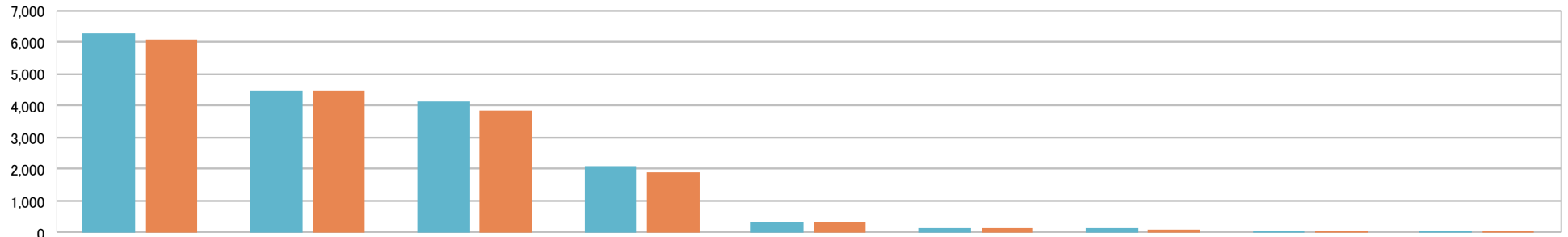


観賞魚用品合計	2022年度	2023年度
	17,544	16,799

②2023年度 カテゴリー構成



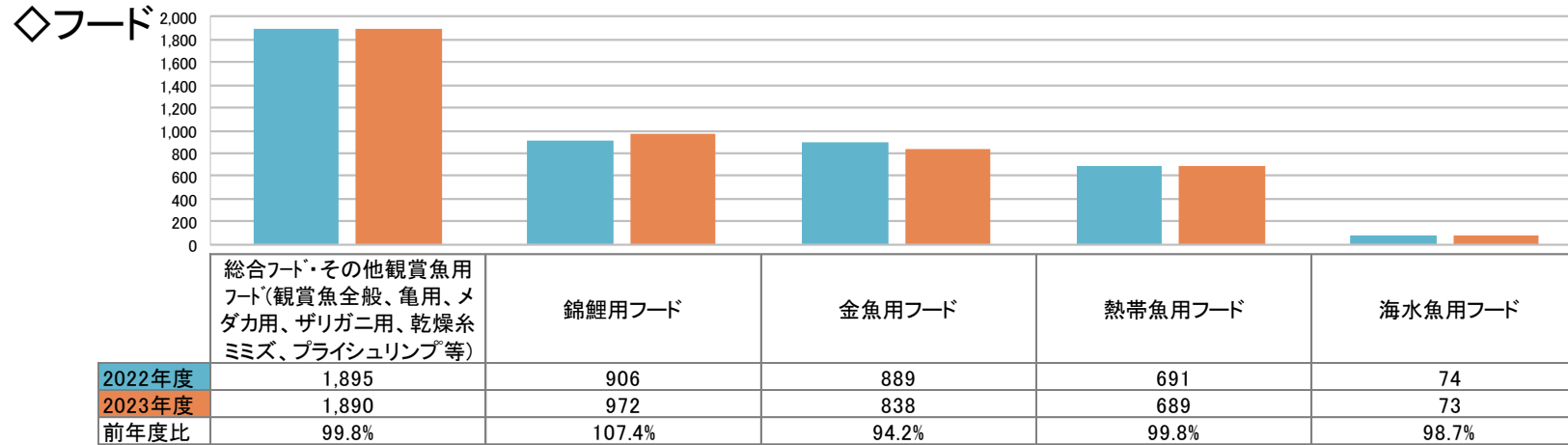
③カテゴリー別出荷金額の年度比較(単位:百万円)



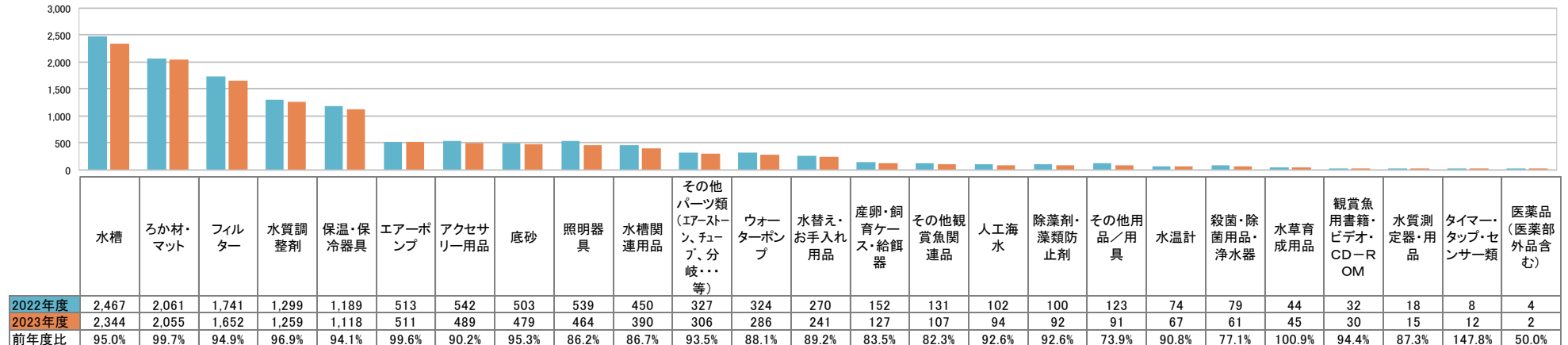
	ポンプ・濾過・水質調整関連商品	フード	水槽・関連用品	ヒーター・照明 関連商品	パーツ類	その他関連品	その他用品/用具	書籍・電子媒体	医薬品関連製品
2022年度	6,281	4,454	4,114	2,079	327	131	123	32	4
2023年度	6,070	4,462	3,829	1,902	306	107	91	30	2
前年度比	96.6%	100.2%	93.1%	91.5%	93.5%	82.3%	73.9%	94.4%	50.0%

# 観賞魚用品に関する統計結果

## ④商品分類別の年度比較(単位:百万円)



## ◇「フード」以外



※巣ごもり需要の落ち着きに加え各社の値上げも影響し、コロナ禍と比較すると新規飼育者は減少。

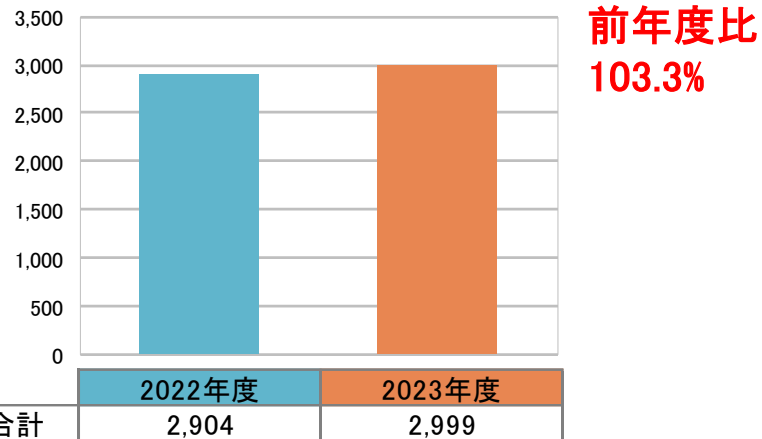
コロナ明けに再開された「金魚すくい」の効果は短期間では実感できず、今後の伸長が期待される。

※メダカ関連市場は一時期ほどの過熱感はなくなったものの、高単価カテゴリとして定着した。

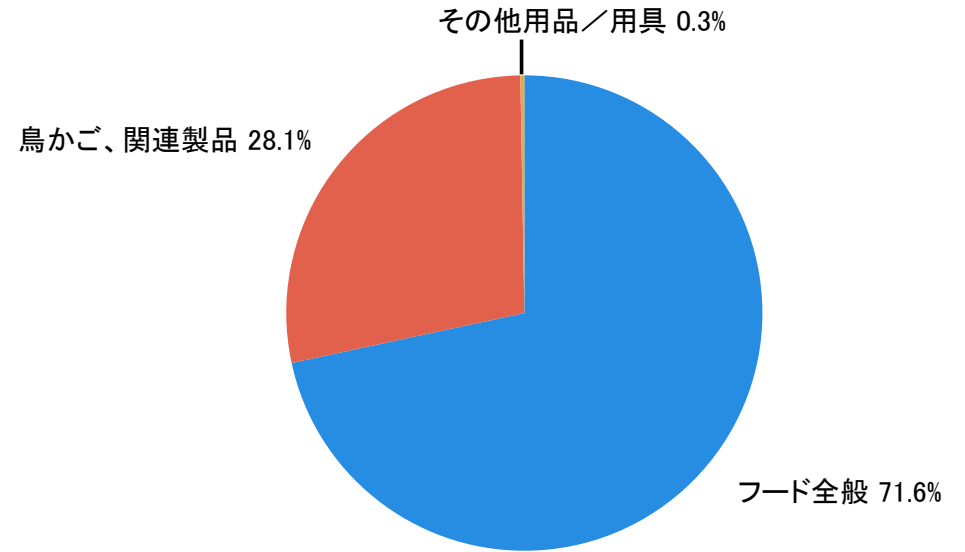
※錦鯉市場では生体の価格高騰に伴い、高単価用品の売上が伸長している。

# 小鳥用品に関する統計結果 集計:13社

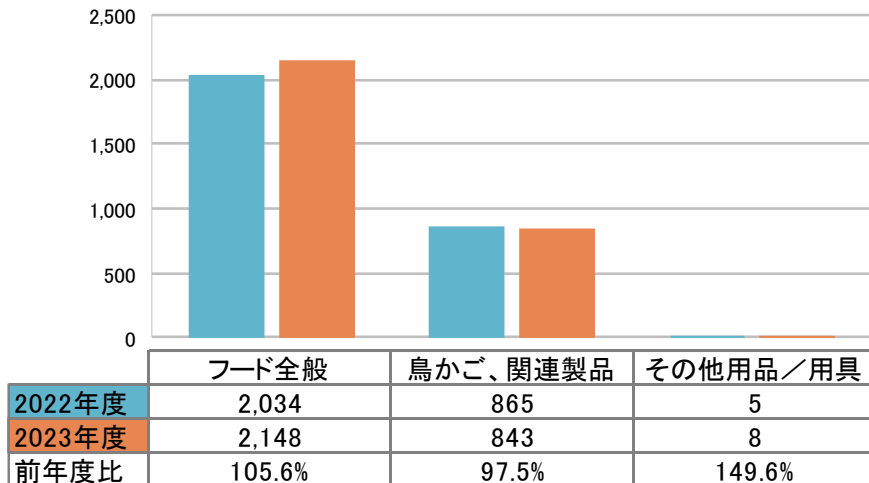
①出荷金額合計の年度比較(単位:百万円)



②2023年度 カテゴリー構成



③カテゴリー別出荷金額の年度比較(単位:百万円)

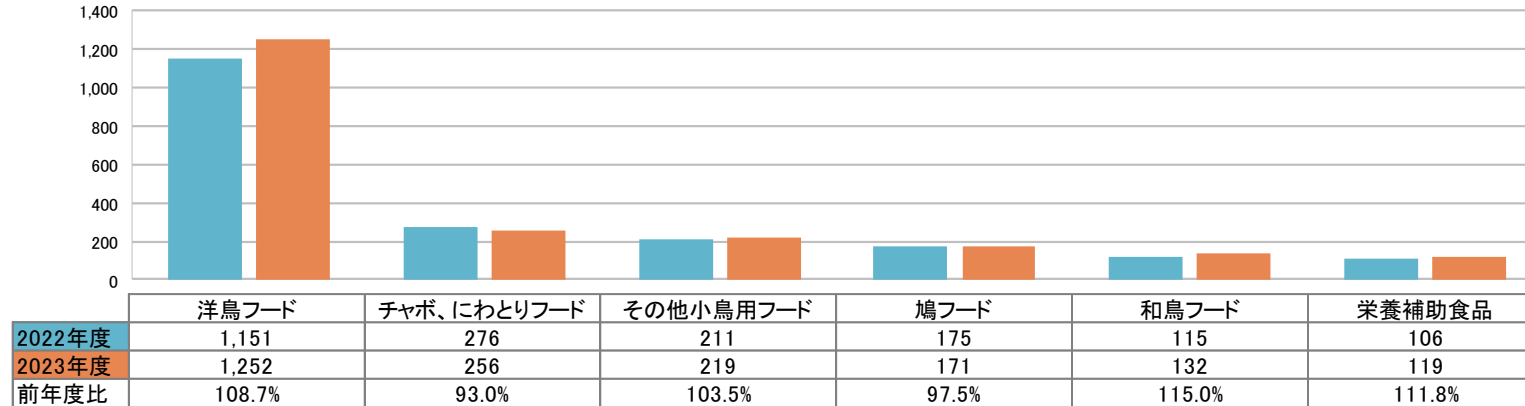




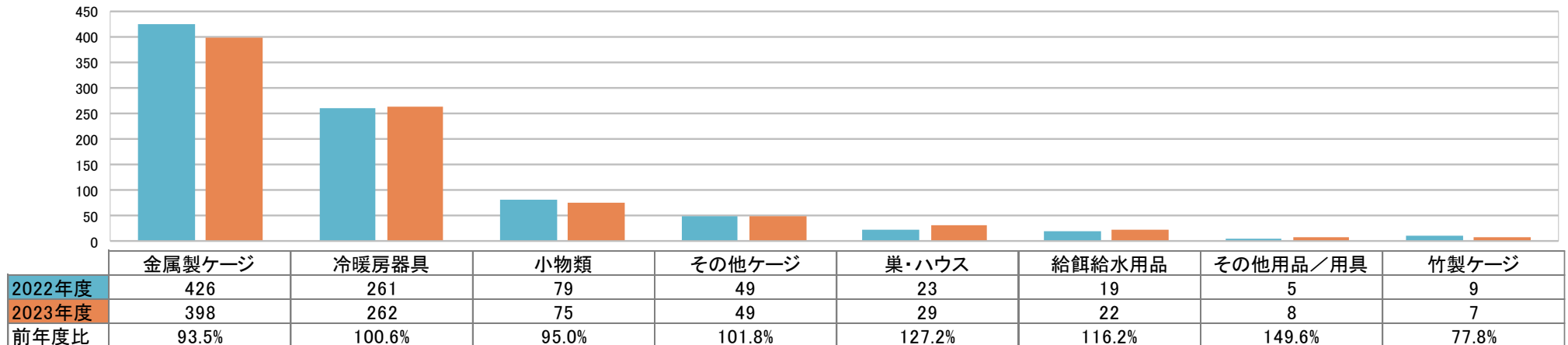
# 小鳥用品に関する統計結果

## ④商品分類別の年度比較(単位:百万円)

### ◇フード全般



### ◇「フード全般」以外



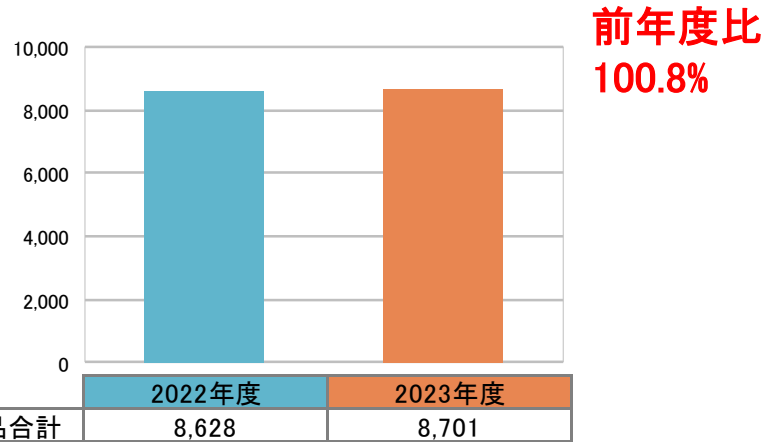
※生体生産者の減少により販売生体数が減少しているが、手乗り生体の普及により、高価鳥種別専用フードの売上伸長が見られる。

※鳥インフルエンザの影響で、チャボ・にわたりの飼育数が減少しており、売上が減少傾向にある。

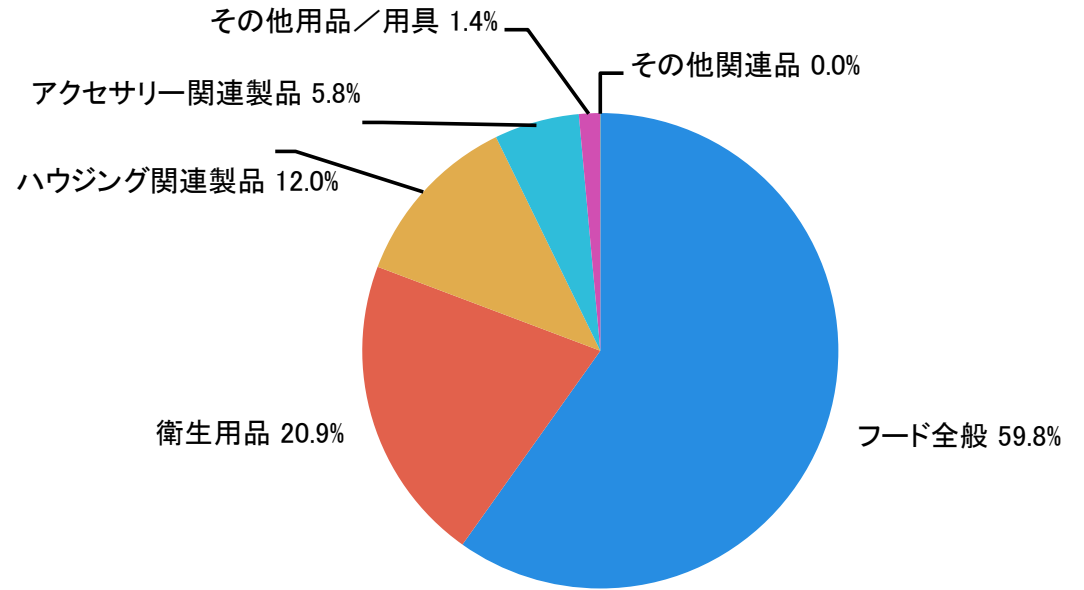
※庭先及びベランダ等に飛んでくる野鳥の餌付けがブームになっており、そのための専用餌や餌台等関連商品の売上が伸長している。

# 小動物用品に関する統計結果 集計:22社

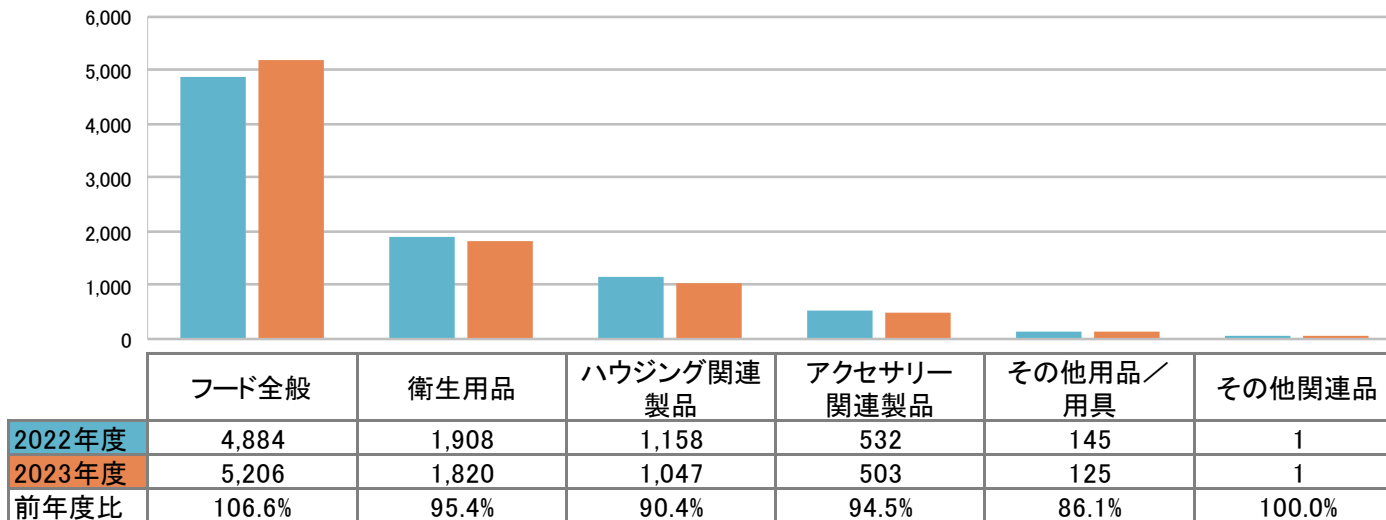
①出荷金額合計の年度比較(単位:百万円)



②2023年度 カテゴリー構成



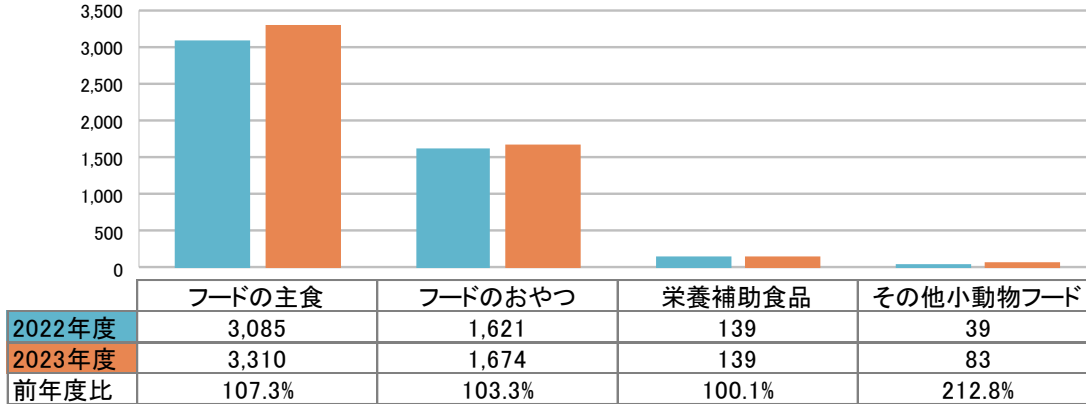
③カテゴリー別出荷金額の年度比較(単位:百万円)



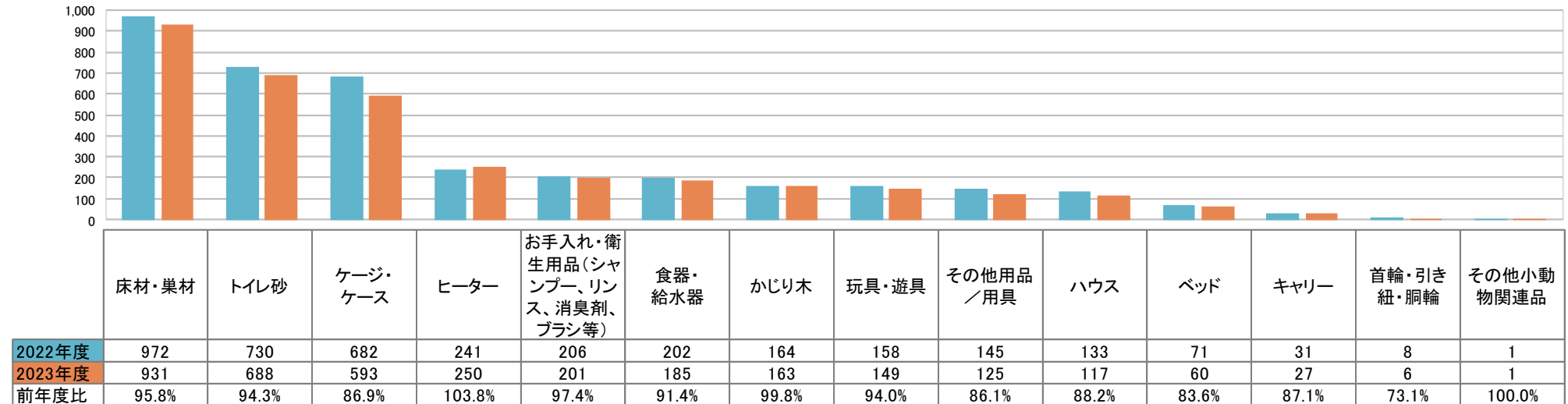
# 小動物用品に関する統計結果

## ④商品分類別の年度比較(単位:百万円)

### ◇フード全般



### ◇「フード全般」以外

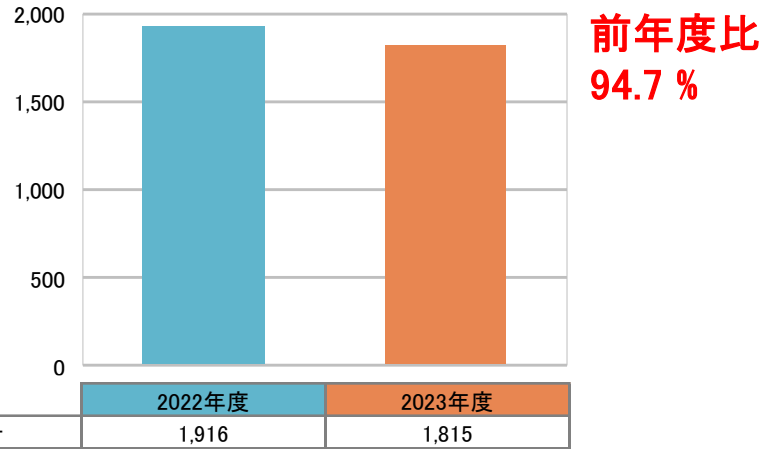


※巣ごもり需要が落ち着き、新規飼育者がコロナ禍より減少した。

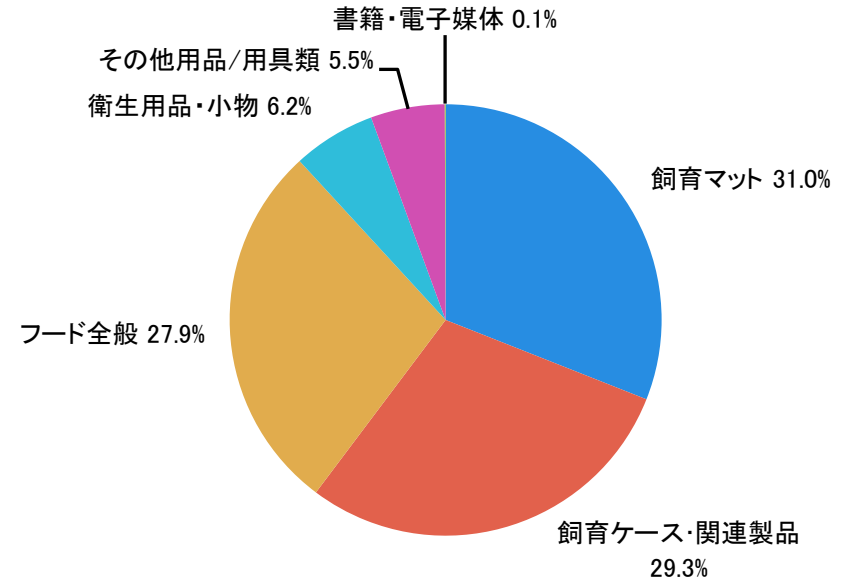
※フードの開発に伴い、うさぎ、ハムスター共に寿命が延びたため、フード、おやつ関係が伸長した。

# 昆虫用品に関する統計結果 集計:9社

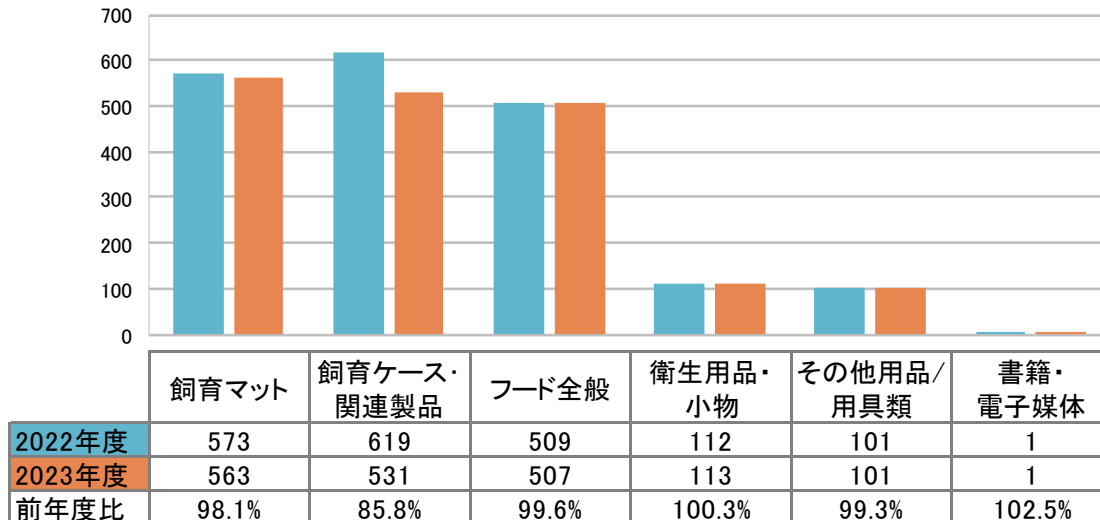
①出荷金額合計の年度比較(単位:百万円)



②2023年度 カテゴリー構成

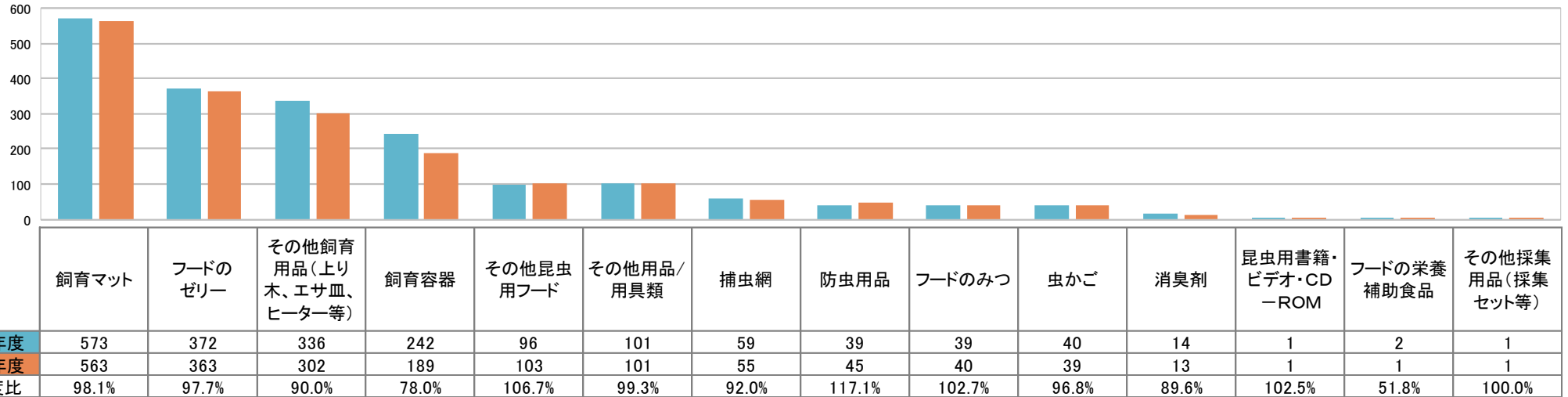


③カテゴリー別出荷金額の年度比較(単位:百万円)



# 昆虫用品に関する統計結果

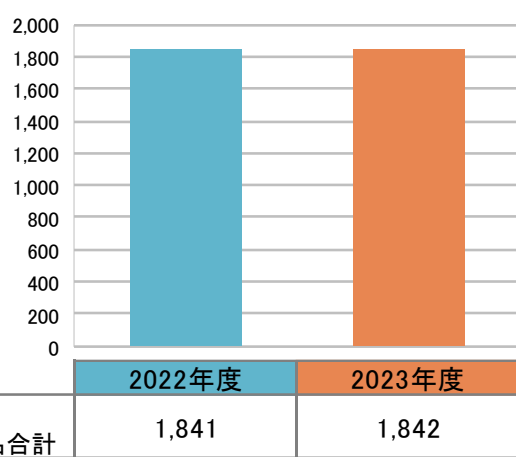
## ④商品分類別の年度比較(単位:百万円)



※昆虫市場は底堅く安定。ただし、コロナ禍で好調だった虫取りのための網・カゴ・容器は、ライフスタイルの変化で前年度を下回った。  
 ※また、子供たちの昆虫飼育に対する関心は高く推移しているが、度重なる値上げにより消費低迷が続いている。

# 爬虫類・両生類用品に関する統計結果 集計:10社

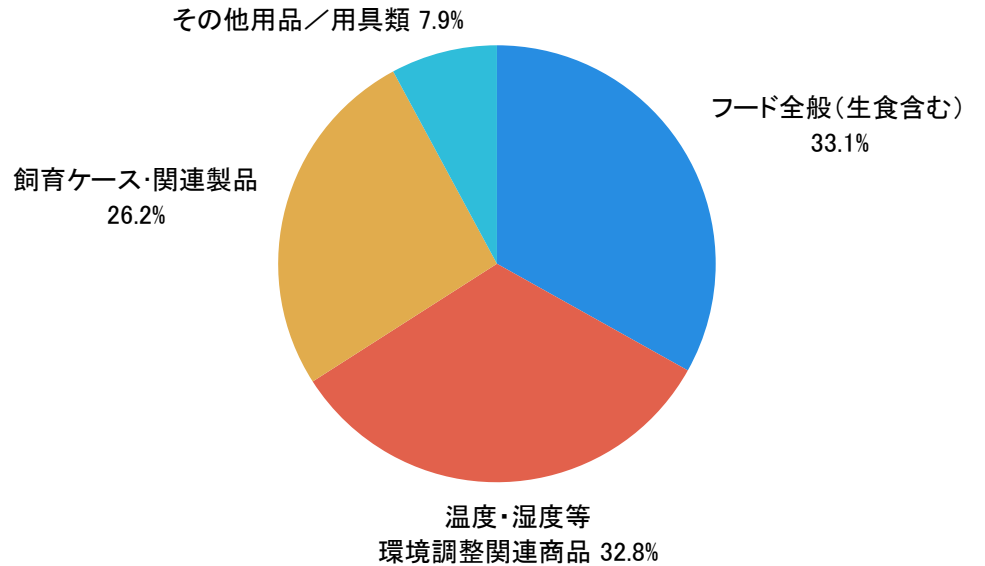
①出荷金額合計の年度比較(単位:百万円)



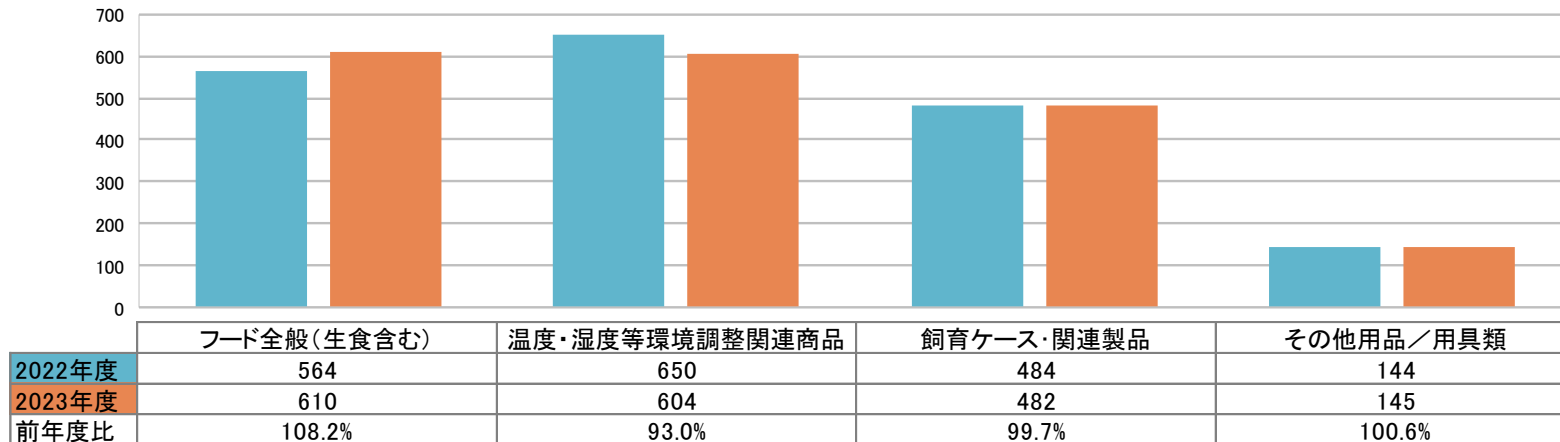
前年度比  
100.0%

爬虫類／ 両生類用品合計	2022年度	2023年度
	1,841	1,842

②2023年度 カテゴリ構成

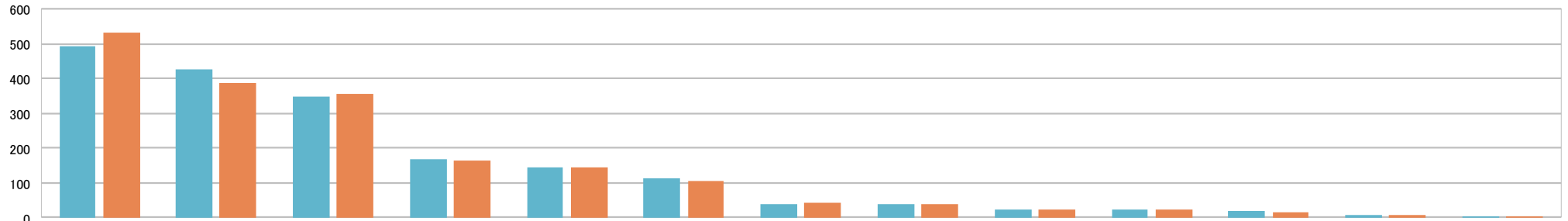


③カテゴリ別出荷金額の年度比較(単位:百万円)



# 爬虫類・両生類用品に関する統計結果

## ④商品分類別の年度比較(単位:百万円)



	フードのドライ (人工飼料)	紫外線 (照明器具)	ケージ	保湿器具	その他用品/ 用具類	床材	その他爬虫 類・両生類フー ド	湿度計・ 温度計	サプリメント(カ ルシウム・ビタ ミン等)	エサ入れ・水 入れ	人工・ 自然飾り	フードの生餌 (コオロギ、ショ ウジョウバエ、ミル ワーム等飼料)	フードのフリー ズドライ(乾燥 コオロギ等 飼料)
2022年度	493	427	349	166	144	112	38	39	24	23	18	7	1
2023年度	534	388	355	164	145	106	41	37	25	21	15	9	1
前年度比	108.3%	90.9%	101.7%	98.5%	100.6%	95.2%	108.1%	97.1%	102.1%	91.3%	83.7%	128.6%	100.0%

※ここ数年、フードの開発が進み、爬虫類飼育のハードルが下がった。爬虫類専門店も増え生体を目にする機会が増えている。

※巣ごもり需要の反動により、一部減少傾向はみられるが、ケージの売上が前年度を上回っていることから、新規飼育者は横ばいで推移していると推測される。